BOOKS

学校蔵の特別授業

佐渡から考える島国ニッポンの未来

尾畑留美子

木造校舎の酒蔵で日本考える

尾畑 留美子・著

日経ＢＰ社・刊

この本は学校蔵で醸されたお酒のように、読了感がきりっとしてさわやか、なにかもやもやと霞んだ閉塞感を晴らす希望と幸せを与えてくれる。著者が創りだした学校蔵の校訓「幸醸心」（幸せを醸す心）によるものだろうか、「学校蔵の特別授業」は受講していないけれど、「級長」である著者の秀逸なレポートに酔わされてしまうのである。

著者の尾畑留美子さんは「真野鶴」ブランドで日本酒を醸している新潟県佐渡島にある尾畑酒造の五代目蔵元で専務。二人姉妹の次女として生まれたので家業を継ぐ気はなく、東京で勉強し就職もしていたが、跡取りの姉夫婦が家を離れてしまったため、帰郷を決意。違う業界にいた現社長となる夫君共ども病気で入院していた父君を助けることになる。22年前のことである。といっても、本書はUターンしたお嬢様蔵元の単なる奮闘記といったものではない。

過疎化が進んで廃校になることが決まっていた西三河小学校。島外から来たので「旅んもん」と呼ばれていた夫君は、今は小中学校の統廃合を含めた佐渡市の教育を考える委員会の委員に就き、廃校になる学校の生徒を受け入れる小学校のＰＴＡの会長にもなった。「夕日が日本一きれいな」日本海を見はるかす高台にあり、子供たちの手から手で磨きこまれてきた木造の校舎を朽ち果てさすにはあまりにもったいない。校舎をそのまま生かして、日本酒を作る蔵にできないものか。こうして学校蔵が立ちあがった。

ことが順調に進んでいったわけではない。縮みつつある日本酒市場、新たな設備投資の負担、法律の規制、さまざまなバリアがある。ふたりはコンビを組んで問題をクリアしていく。こうして学校蔵では酒造りだけでなく、酒造りを学ぶ場、交流の場、環境の場として活用するという４つの目標が作られた。「学校蔵の特別授業」とは、構想から４年で立ち上がった講師を囲んだワークショップ。２０１４年８月と15年６月に島内外の人が集まり、「佐渡から考える島国ニッポンの未来」といった共通の大テーマで学び、語り合った内容を要約して、交流の場の成果を世に問うたものである。

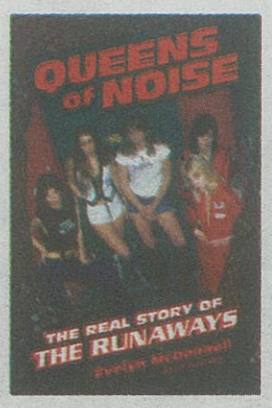
講師として登場した藻谷浩介（日本総合研究所主席研究員）、酒井穣（ＢＯＬＢＯＰ代表取締役）、玄田有史（東京大学社会科学研究所教授）の三氏と学校蔵の「級長」の尾畑さんとのやりとりが見事。地域振興・情報・発想などの専門家は、地方のメリットを熱く説く。

直近の国勢調査では人口が一人暮らしの６５歳以上が26％、６人に１人が高齢化の問題の現在の日本。少子高齢化の問題は佐渡だけでなく東京などの都会も同じ。尾畑さんは13年前から直接の酒蔵を手掛け、今は海外輸出を手掛け、国内に広がっている14か国。朱鷺（とき）がえさをつついばむ田んぼで獲れた地場の米だけで醸造する学校蔵の酒。ここから地方発信する指針はひとつだけでなく、都会の希望でもあり、問題を解決するヒントがいっぱいある。（山岡昭男／エッセイスト）

AMERICAN BOOK JAM

ザ・ランナウェイズの伝記

『Queens of Noise』
Written by Evelyn McDonnell
Published by Da Capo Press



アメリカの音楽ジャーナリスト、エブリン・マクドネルによる70年代に人気を得た少女ロックバンド、ザ・ランナウェイズの伝記。女性ロックバンドとしては初めてメージャーレーベルと契約し、1975年から解散する79年までに4枚のアルバムを出した。とくに日本ではカルト的な人気を集め、ライブ公演も行った。

結成当時16～17歳だったザ・ランナウェイズと30歳を超えたマネージャー、フォウリーとの関係、予算が大きく抑えられたツアー、親には「家庭教師や付き添い人がつく」などと嘘の約束がなされた事実などが語られる。

女性バンドの草分け的存在だった彼女たちの音楽的、文化的、そして人間の歴史が描かれている。（秦隆司／アメリカン・ブックジャム編集長）

■即買える新刊を紹介■

BUY BOOK ON LINE
オンラインですぐ注文できます
デジタル版www.nyseikatsu.comでここをクリック
BOOKS Kinokuniya
▲クリックすると新刊購入サイトへ！

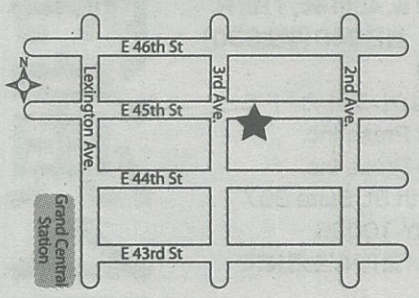
少女が湛（たた）えた青春の秘密。84歳の前衛芸術家がニューヨークで見つけたもの。医療の未来を映し出す短篇集。不法移民批判が高まる米国の政策とは。誉田哲也の代表作2つのコラボ小説。「週刊文春」人気連載の第4弾。

■砕け散るところを見せてあげる（竹宮ゆゆこ、新潮文庫）高校３年の濱田清澄は、全校集会で１年生の蔵本玻璃がいじめに遭っているのを目撃する。割って入る清澄だが、助けたはずの蔵本は拒絶する。やがて蔵本の素顔とともに清澄はある事件の本質を知る。少女が湛（たた）えた青春と呼ぶには切なすぎる感情を感情を描く、想像を絶する展開に胸を突かれる物語。**■げんこつで世界を変えろ！**（大貫祥子、サンポスト）1960年代の日本のアートシーンに嵐を巻き起こした篠原有司男。絵画やボクシングペインティングなどで国内外から高い評価を受け、現在もコンテンポラリーアートの最先端を疾走する84歳の前衛芸術家が、ニューヨークで見つけたものとは。2015年10月に行われたインタビューを収録した、サンポスト社のインタビューシリーズ第５弾。**■ランクA病院の愉悦**（海堂尊、新潮文庫）とんでもない医療格差が出現した近未来の日本。売れない作家の終田千粒は「ランクＣ病院」で銀行のＡＴＭに似たロボットの診察しか受けられない。そんな彼に「ランクＡ病院」潜入取材の注文が舞い込む（表題作）。奇抜な着想で医療の未来を映し出す5つの短篇集。**■移民大国アメリカ**（西山隆行、ちくま新書）1990年代以降、中南米出身の移民が急増し、現在1000万人を超える不法移民が暮らす移民大国アメリカ。移民の支持を得たオバマ大統領は、500万人以上の不法移民に合法的地位を与える行政命令を出した。不法移民批判が高まるアメリカでその政策はどう展開するのか、政治学者が分析する。**■硝子の太陽Ｎ〈ノワール〉**（誉田哲也、中央公論新社）沖縄での活動家死亡事故を機に全国で反米軍基地デモが激化した。新宿署の東弘樹警部補は「左翼の親玉」を取り調べるが、その直後に覆面集団による滅多刺し事件が起こる。本書と『硝子の太陽Ｒ〈ルージュ〉』の2冊を同時発売、誉田哲也の代表作「ジウシリーズ」と「姫川玲子シリーズ」のコラボレーション小説。**■トランプがローリングストーンズでやってきた－言霊ＵＳＡ**（町山智浩、文藝春秋）米国在住の映画評論家、町山智浩がいま、米国で起きているおバカな出来事、日本では考えられないハチャメチャなニュースを、現地で流行ったスラング、失言、名言をもとに面白おかしく、かつ歴史的な背景も絡めながら解説する。「週刊文春」人気連載の第４弾。（前田真里）

■書籍データ／資料提供・紀伊國屋書店ＮＹ本店

MTC KITCHEN
Mutual Trading Company
Providing Japanese Restaurant Supplies Since 1926

Mutual Trading Company（共同貿易）のオンラインショップでは、シェフ用の和包丁やキッチン道具、器など、MTC Kitchenでしか購入できない商品を多く取り揃えております。

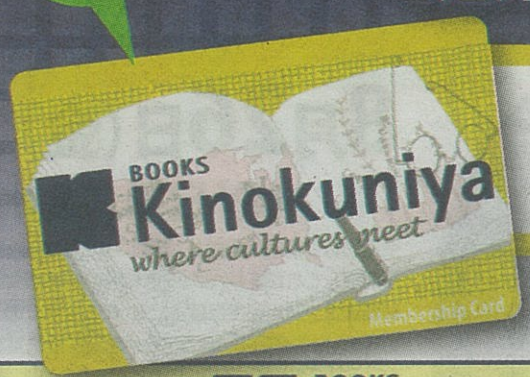


MTC Kitchen オンラインショップ
www.MTCKitchen.com
MTC Kitchen マンハッタンストア
711 3rd Ave. New York, NY10017
（45丁目、 2&3番街の間）
Tel: 212-661-3333
月～金　10am～7pm EST
土・日　定休日

マンハッタンストアスタッフ一同、皆さまのお越しを心よりお待ち申し上げております。

New York Mutual Trading., Inc.　http://www.nymtc.com/
77 Metro Way Secaucus, NJ 07094 Tel. 201-933-9555

お得な「紀伊國屋メンバーカード」を是非ご利用下さい！



年会費 $25+TAXで
全品 10% 割引
・WAZA/DOCOMO/ZAIYA/定期購読など一部割引対象外となります。
・詳しくは店頭にてお尋ね下さい。

BOOKS Kinokuniya
お問い合わせ：紀伊國屋書店 NY本店
1073 Avenue of the Americas, New York, NY 10018（6番街 40丁目と41丁目の間）
tel: 212-869-1700　fax: 212-869-1703　email: nyinfo@kinokuniya.com
www.kinokuniya.com